

令和6年度観測結果

観測井番号		令和6年度の観測結果			考察
		水位	水温	電気伝導度	
4	浅層	令和6年12月から、わずかであるが低下傾向を示し、令和7年3月初旬以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下の要因について、旧枝川の上流側で工事を実施しており、水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響の可能性が高いと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
5	浅層	令和6年12月から、わずかであるが低下傾向を示し、令和7年3月初旬以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下の要因について、旧枝川の上流側で工事を実施しており、水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響の可能性が高いと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
6	浅層	令和6年12月から、わずかであるが低下傾向を示し、令和7年3月初旬以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下の要因について、旧枝川の上流側で工事を実施しており、水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響の可能性が高いと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
7	浅層	令和5年11月から令和6年3月中旬まで一時的に著しく低下していた。また、令和6年12月から、わずかであるが低下傾向を示し、令和7年3月初旬以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	令和6年3月までの一時的な水位低下は、河川工事の影響を受けたものであると考えられる。令和6年度は当観測井の上流側で工事を実施しており、水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響の可能性が高いと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
	洪積層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。
9	浅層	令和5年11月から令和6年3月中旬まで一時的に著しく低下していた。また、令和6年12月から、わずかであるが低下傾向を示し、令和7年3月初旬以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	令和6年3月までの一時的な水位低下は、河川工事の影響を受けたものであると考えられる。令和6年度は当観測井の上流側で工事を実施しており、水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象の影響を受けたものの可能性が高いと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
10	浅層	令和6年1月から令和6年3月中旬まで一時的に低下していた。また、令和6年12月から、低下傾向を示し、4月下旬以降は上昇傾向にある。	変化なし	変化なし	令和6年3月までの一時的な水位低下は、河川工事の影響を受けたものであると考えられる。令和6年度は当観測井の上流側で工事を実施しており、水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響と工事による側面の両方の可能性がある。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
11	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月初旬に回復し、以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響と工事による側面の両方の可能性がある。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
12	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月初旬に回復し、以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は一部重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響と工事による側面の両方の可能性がある。潮止堰倒伏による塩水化の影響は出ていない。
13	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月初旬に回復し始める。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は一部重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響と工事による側面の両方の可能性がある。潮止堰倒伏による塩水化の影響は出ていない。
14	浅層	水位は令和6年12月以降低下傾向を示し、令和7年3月以降横ばいとなり、観測期間で最も低い水位となる。	変化なし	変化幅が小さくなり、最高値が133mS/mで変化する。	水位低下期間と工事期間は重なるが当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響と工事による側面の両方の可能性がある。今後の状況を注視する必要がある。電気伝導度は、潮止堰倒伏前より、汽水程度の値を示していたこともあり、潮止堰倒伏による影響ではないと考えられる。
	洪積層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。

観測井番号		令和6年度の観測結果			考察
		水位	水温	電気伝導度	
15	浅層	令和6年1月から低下していたが、令和6年5月に回復した。令和6年12月以降、低下傾向を示し、令和7年3月以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	令和6年1月から5月の水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。令和6年12月以降の水位低下については、工事期間と重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響と工事による影響の両方の可能性が考えられる。潮止堰倒伏による塩水化の影響は出ていない。
16	浅層	令和5年11月下旬から低下傾向であったが、令和6年7月に回復。再び低下傾向を示し、令和7年3月以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。また、1号床止工撤去に伴う河川水位低下に合わせて地下水位も低下している。令和6年7月以降の水位低下については、工事開始前であることから、気象の影響を受けたものである。潮止堰倒伏による塩水化の影響は出ていない。
	洪積層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。
17	深層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。
	洪積層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。
18	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月初旬に回復し、以降横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
19	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月初旬に回復傾向にある。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
20	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月初旬に回復傾向にある。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
21	浅層	令和5年11月下旬低下していたが、令和6年5月に回復した。令和6年7月以降低下傾向を示し、3月以降にほぼ横ばいとなる。	変化なし	変化なし	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。令和6年7月以降の水位低下については、工事開始前であることから、気象の影響を受けたものと考えられる。また、潮止堰倒伏による塩水化の影響は出ていない。
22	浅層	令和6年7月以降低下傾向を示し、3月以降にほぼ横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
	洪積層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。
23	浅層	令和6年7月以降低下傾向を示し、3月以降にほぼ横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
24	浅層	令和6年7月以降低下傾向を示し、3月以降にほぼ横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
25	浅層	令和5年11月から急激に低下し、令和6年2月末頃から令和6年7月に向けて回復傾向であった。以降徐々に低下しており、令和7年3月以降はほぼ横ばいである。	過去に25度を超えていた最高水温が20℃程度となり、周期にも変化が生じている。	令和6年9月以降に60mS/m程度で安定している。	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。また、1号床止工撤去に伴う河川水位低下に合わせて地下水位も低下している。令和6年7月以降の水位低下については、工事開始前から低下していることから、気象による影響を受けられていると考えられる。水温変化が小さくなっていることから、令和5年度の潮止矢板設置に伴い、河川水の混入がなくなり、観測井内は堤内側からの地下水に占められたと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。

観測井番号		令和6年度の観測結果			考察
		水位	水温	電気伝導度	
25	深層	令和5年11月から急激に低下し、令和6年2月末頃から令和6年7月に向けて回復傾向であった。以降徐々に低下しており、令和7年3月以降はほぼ横ばいである。	過去に20度を超えていた最高水温が18℃程度となり、周期にも変化が生じている。	令和5年10月に急激に500mS/m程度まで上昇していたが、徐々に低下し、100mS/m程度で安定している。	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。また、1号床止工撤去に伴う河川水位低下に合わせて地下水位も低下している。令和6年7月以降の水位低下については、工事開始前から低下していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。水温変化が小さくなっていることから、令和5年度の潮止矢板設置に伴い、河川水の混入がなくなり、観測井内は堤内側からの地下水に占められたと考えられる。また、令和5年10月の電気伝導度上昇については、工事開始前であるため、要因は不明である。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
26	浅層	令和5年11月から低下し、令和6年2月末頃から令和6年7月に向けて回復傾向であった。以降徐々に低下しており、令和7年3月以降はほぼ横ばいである。	変化なし	変化なし	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。令和6年7月以降の水位低下については、工事開始前から低下していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。今年度の電気伝導度や塩化物イオン濃度は今年度は、淡水程度の値を示す。電気伝導度は施工前から汽水の値を示していることもあり、工事進捗に伴う変化ではない。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
27	河川水	潮止堰完全倒伏前の最低水位は、潮止堰の高さに制限され、0.9m程度であったが（一時的な倒伏時を除く）、倒伏後は、潮汐の影響を受けて、－0.3m程度まで低下することもあり、大きく変動する。	変化なし	潮止堰倒伏までは、最高値が4800S/mであったが、倒伏後8800S/mまで上昇している。	潮止堰倒伏の影響で、水位は潮汐の影響を受ける。塩化物イオン濃度、電気伝導度が高くなり、潮止堰倒伏の影響で塩水化している。
28	浅層	令和6年7月以降、低下傾向を示す。	変化なし	変化なし	水位低下の要因は工事開始前の7月以降から低下していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
	洪積層	令和6年7月以降、低下傾向を示す。	変化なし	変化なし	水位低下の要因は工事開始前の7月以降から低下していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
29	浅層	令和6年7月以降、低下傾向を示す。	令和5年1月以降、周期が変化している。	変化なし	水位低下の要因は工事開始前の7月以降から低下していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。電気伝導度は高い値を示すが、過去にさらに高い値を示す時期もあり、潮止堰倒伏による影響は出ていない。
	洪積層	変化なし	変化なし	変化なし	工事に伴う影響は出ていないと考えられる。
30	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月以降にほぼ横ばいとなる。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
31	浅層	令和6年12月以降に低下傾向を示し、令和7年3月以降に回復傾向を示す。	変化なし	変化なし	水位低下期間と工事期間は重なるが、当事業の観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象による影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
32	浅層	令和5年11月に著しく低下し、令和6年5月から回復した。令和6年12月以降徐々に低下しており、令和7年3月以降は横ばいである。	変化なし	変化なし	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。令和6年12月以降の水位低下については、対岸の工事期間と重なるが、観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。
33	浅層	令和6年11月以降から著しく低下し、令和7年4月初旬より上昇傾向にある。	周期が令和6年12月初旬から変わり、令和7年4月中旬頃より再び変化している。	変化なし	水位低下については、河川工事の影響を受けたものと考えられるが、回復傾向にある。水温については、河川工事の影響により、観測井内への河川水の流入がなくなったため、一時的に変化したと考えられる。潮止堰倒伏による塩水化の影響は受けていない。
34	浅層	令和5年12月に著しく低下し、令和6年2月頃から回復したが、令和6年7月以降徐々に低下しており、令和7年3月以降は横ばいである。	変化なし	変化なし	令和5年12月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。令和6年12月以降の水位低下については、対岸の工事期間と重なるが、観測箇所全体で12月以降に緩やかに低下傾向を示していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。潮止堰倒伏による影響は出ていない。

観測井番号		令和6年度の観測結果			考察
		水位	水温	電気伝導度	
35	浅層	令和6年11月下旬から著しく低下し、令和7年4月初旬より上昇傾向にある。	変化なし	変化なし	水位低下については、河川工事の影響を受けたものと考えられるが回復傾向にある。潮止堰倒伏による塩水化の影響は受けていない。
36	浅層	令和5年11月から急激に低下し、令和6年2月末頃から令和6年7月に向けて回復傾向であった。以降徐々に低下しており、令和7年3月以降はほぼ横ばいである。	過去に27℃を超えていた最高水温が20℃程度となり、周期にも変化が生じている。	変化なし	令和5年11月からの水位低下の要因は河川工事の影響を受けたものと考えられる。また、1号床止工撤去に伴う河川水位低下に合わせて地下水位も低下している。令和6年7月以降の水位低下については、工事開始前から低下していることから、気象の影響を受けたものと考えられる。水温変化が小さくなっていることから、令和5年度の潮止矢板設置に伴い、河川水の混入がなくなり、観測井内は堤内側からの地下水に占められたと考えられる。潮止堰倒伏による塩水化の影響は出ていない。
37	浅層	令和6年11月下旬から、令和7年3月にかけて徐々に低下傾向を示し、現在回復傾向にある。	変化なし	変化なし	水位低下の要因は、河川工事の影響を受けたものと考えられる。ただし、徐々に低下していることから、気象による影響も含まれている。潮止堰倒伏による塩水化の影響は受けていない。
38	浅層	令和6年11月下旬から、令和7年3月にかけて徐々に低下傾向を示し、現在ほぼ横ばいである。	変化なし	変化なし	水位低下の要因は、近隣の河川工事の影響を受けたものと考えられる。ただし、徐々に低下していることから、気象による影響も含まれている。潮止堰倒伏による塩水化の影響は受けていない。